筑北小学校だより

令和２年６月１９日
No. ３
校長　久保田雅樹

◆学校が再開しました

５月の連休明けから徐々に、半日登校や学年を２つに分けての分散登校など、学校再開に向けた段階的な登校期間を設けてきましたが、６月になってようやく全校一斉の学校生活を再開することができました。臨時休業期間中、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様、村関係者の皆様には、様々な面から学校の対応にご協力いただき、子ども達の学びや生活を支えてくださり、本当にありがとうございました。まだ予断を許さない状況ではありますが、可能な限り新しい生活様式を取り入れて、感染予防に努めながら学校生活を送っていきたいと思います。

▲「全員そろいました！」（１年生）

▲らんらんタイムも始めました

▲金管バンド　パートごと分かれて練習開始

学習については、４～５月までの内容を含めてできるだけ１学期のうちに進めるために、学校で学んだことを復習する家庭学習だけでなく、予習としての家庭学習を出す場合もあると思います。

詰め込みにならないように、子ども達の学習状況を見ながらしっかり支援していきますのでご理解ください。

◆心強い！放課後や下校の応援団・地域の方々

学校再開とともに様々な場面で、つつじっ子応援団をはじめ、たくさんの地域の方のお世話になっています。

（１）自主活動の支援

月曜日（３～６年）木曜日（４～６年）金管バンドに入っていない子ども達がバスを待つ間、多目的室などで自習や読書を行います。その支援に来てくださっています。

滝澤健太さん(大学生)　中村あゆさん(大学生)　田中善子さん(坂北)　山田　寿さん(坂井)

（２）下校後の消毒作業の支援

子ども達が帰った後、各教室は担任、その他の場所は養護教諭が消毒していますが、毎日夕方来校してその作業を一緒にやってくださっています。

小山正博さん　玉井政彦さん　若林敬子さん　萬井路花さん　市川由子さん　山田和代さん　西沢君夫さん
小岩井泉さん　山口みつ江さん　（以上　坂井の方々）

（３）バス下校の付き添い

再開したばかりで学校生活にまだ慣れず、バス下校の途中で疲れて寝てしまう子も中にはいます。１・２年生だけで下校する時に一緒にバスに乗って、乗り過ごさないように声をかけてくださっています。（１２日まで）

小山正博さん　玉井政彦さん　若林敬子さん　西沢君夫さん　（同上）

◆生活のリズムをととのえましょう！

今までずっと「ステイホーム」だったので、分散登校があったとは言え、学校生活のリズムを取り戻すのはなかなか大変なことです。６月最初は子ども達にとってハードな１週間だったので、週末ともなると疲労の色が…。お家での支えが本当にありがたく感謝いたしております。これからも、バランスのよい食事や入浴、充分な睡眠でリフレッシュできるようにお願いします。学校でも子ども達の様子をよく見ながら指導していきます。

▲上手な歯の磨き方を学ぶ（３年生）

◆あいさつの力はすごい！　6／19校長講話より

今日お話しするのは、洞下実さんという人のお話です。洞下さんはサンコーテクノという会社の社長さんでした。洞下さんはある日、会社の社長さんだけが集まる勉強会に参加したそうです。そこで教わったことが「こんな社長が会社をつぶす」ということでした。次の５つです。

①責任を他の人におしつける社長
②会社の利益しか考えない社長
③まわりの言うことを聞かない社長
④自分の家庭のことを考えない社長
⑤自分の両親に感謝の気持ちがない社長

この５つを聞いたとき、洞下さんはとてもびっくりしたそうです。なぜなら全部自分にあてはまっていたからです。実は当時、洞下さんは会社がうまくいかずに悩んでいて、なんとかしたいと思ってこの勉強会に参加していたんです。勉強会に参加してはじめて、会社がダメなのは全部自分のせいであることに気づくのでした。

さて、実はこの５つのことよりもっと大事な「６つめのこと」がありました。何だと思いますか？ヒントは「〇〇〇〇ができない社長」です。答えは「あいさつ」です。「あいさつができない社長は必ず会社をつぶしてしまう。」と教えられたんです。洞下さんはまたまたショックを受けます。洞下さんはあいさつなんてどうでもよいと思っていたからです。

「会社を何とか立て直したい」と思っていた洞下さんは、とにかく次の日からこの「あいさつ」を自分からするようにしました。ところが、洞下さんがいくらあいさつをしても、社員は誰一人としてあいさつを返してくれませんでした。なぜでしょう。答えは、「社長が気が狂ったと思ったから」です。中には、社長のあいさつがいつまで続くか賭けをしていた社員もいました。しかし、洞下社長は翌日も同じように「おはようございます」とあいさつを行いました。社員は、また返事をしません。その翌日も、そのまた翌日も。そんな社員の態度にもめげず、洞下社長はあいさつを続けました。そして、１週間が経とうとするころ、ポツポツ返事が返ってくるようになり、２週間が過ぎるとほとんどの社員から返事が返ってくるようになりました。洞下社長はこのとき「涙が出るくらいうれしかった」そうです。

こうして、あいさつによって、社長と社員の間に良い関係が生まれると、会社の空気も目に見えて変わっていきました。それまでは「あなたの会社の社員は礼儀がなっていない」と言われていたのが、「あなたの会社の社員は、あいさつや返事が素晴らしいですね。」とほめられるようになりました。そして、ほめられるとともになぜか業績も急成長していきました。さらに、数年後にはタイへの海外進出まで果たすまでになりました。（紙面の関係でタイでの話は省略）あいさつの力ってすごいですね。